

事業報告書

令和8年5月29日

石巻市（施設名 石巻市指定文化財旧観慶丸商店）			
法人・団体名	一般社団法人ISHINOMAKI2.0		
代表者名	代表理事 松村豪太	設立年月日	2012年 2月 14日
所在地	石巻市中央二丁目10番2号		
電話番号	0225-90-4982	FAX番号	0225-90-4983
E-mail	info@ishinomaki2.com		

現在運営している類似施設	所在地	主な業務内容	管理運営期間
なし			自 年 月 日 至 年 月 日
			自 年 月 日 至 年 月 日

指標名		単位	目標値	実績値
活動指標	文化交流スペースの貸出、展示回数	人	110	26
成果指標	年間入場者数	%	12,300	9,600

管理業務に関する内容（別紙可）

【施設の管理運営状況】

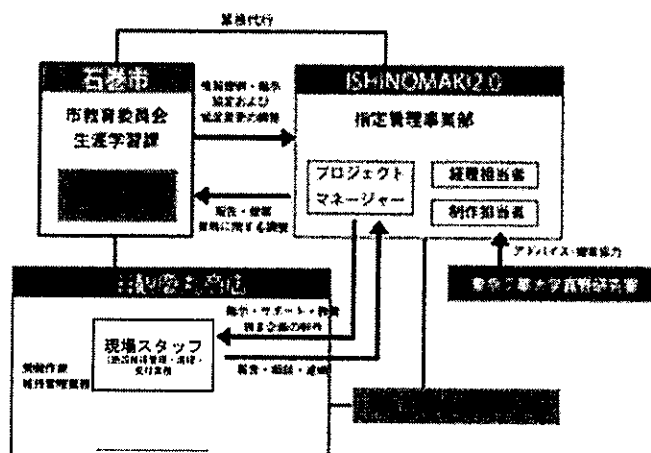
- ・条例及び管理規則、仕様書に則り、利用申請や料金収受、利用許可証発行等、適正に実施した。
- ・利用者アンケートやモニタリングにより利用者のニーズを把握し、管理運営の改善をおこなった。
- ・暴風をともなう豪雨後の壁面から漏水が複数回発生。被害からの復旧や、清掃をおこなった。
- ・建物の老朽による不具合箇所を点検し、安全性の向上と施設美観向上に努めた。

【施設の現状に対する認識及び今後のあり方】

- ・イベント実施時以外でも、来場者が気軽に訪問しやすくするために、夏期間には飲料水を設置し休憩所としての利用促進を行った。
- ・2025年8月23日と2025年11月3日に開催された非公開部分である3階特別公開日には多くの申し込みがあり、施設に対する市民の関心の高さが引き続き伺える。市内外問わず、首都圏などからも見学希望者が訪れた。今年度からは、ただ公開するのではなく、8月の開催の際には小学生向けにわかりやすさを重視して取り組み、11月の開催の際にはアサイ美術部とのまちあるきを連動し、3階部分でかつて提供されていたとされるカレーをテーマにするなど前年度よりも企画性を意識した公開となった。
- ・今年度は、石ノ森萬画館の企画展との連動や、リピーター利用者の長期利用等で集客に繋がる機会も多くあったが、長期間で貸出利用者も多く、昨年度よりも来場者数が上昇することとなった。また自主企画として怪談イベントを開催したり、地域のアーティストによる企画展示及びパフォーマンスイベントを行うことで、これまでとは違う属性の来場者へアプローチをかけ、来場者増加に繋がった。窓側スペースを活用したまちかどギャラリー等、創意工夫しながら地域住民の関心を引く取り組みを続けている。また、自主事業として企画展等、独自の取組も少しずつ増やしていつていることで、これまでとは違う客層にもアプローチを始めている。
- ・前年度の修繕により展示品などに対する雨漏り被害は防ぐことができるようになった。しかし、今年度は雷雨の影響で防犯カメラの故障も発生し、新たなカメラの設置及びシステム構築を行った。

【施設管理について】

- 1 組織又は人員の体制及び従業員の雇用（指揮命令系統が分かる組織図を含む。）
職員の配置、緊急時の連絡体制整備は、仕様書及び事業計画書に沿って適正な体制を取ることができた。



2 従業員の研修実績

従業員研修では、通報訓練、避難訓練やAEDの使用を想定した救命訓練もおこなった。

・令和7年7月22日（火）

石ノ森萬画館見学及び意見公開

スタッフ研修として、石ノ森萬画館で施設見学おこなった。館内を順路に沿って見学させていただき、スタッフの大森氏による展示の意図や配置の意図、また視線誘導の仕方など具体的なことを教授していただいた。

また、災害時の対応についても、震災前と震災後では大きく変化したことなども教えていただき、旧観慶丸商店の災害マニュアルの再検討に繋がった。

施設の管理をされている街づくりまんぼうが運営する施設を見学することで、広報の仕方や施設運営のノウハウを旧観慶丸商店が主催する展示企画や日頃の施設管理に活かせる手立てはないか検討した。

研修では施設全体をスタッフの大森氏のガイドに沿って見学し、その後両方で話し合う機会を設けた。旧観慶丸商店の2階展示室でおこなう企画展に関して意見交換をおこない、施設連携の可能性を話し合った。

・令和7年6月25日（水）

通報訓練、避難訓練の実施。

・令和7年7月23日（水）

AED講習救命訓練実施

【施設運営について】

1 年間の管理運営実績（「事業実施報告書」については別紙に記入。）

(1) 開館日数・休館日数

- ・開館日 308日
- ・休館日 57日

(2) 施設利用者数 令和7年度

- ・利用者合計：9,600名 参考:8,109名（R6）9,497（R5）10,361名（R4）
- ・1日平均利用者数：32名 参考:26.3名（R6）30.7名（R5）34.8名（R4）
- ・1F貸出利用件数：30件 参考:38件（R6）31件（R5）、26件（R4）
- ・1F貸出利用日数：100日 参考:62日（R6）105日（R5）、119日（R4）

2 利用者等に対するサービス向上のための方策

- ・1F文化交流スペースの貸出利用者に、広報協力の許諾をいただき、1F催事の広報をSNSや公式ホームページに掲載することで、周知の支援をおこない、貸館利用者にとっての利便性をあげた。
- ・施設の一部である街角に面した窓部分をギャラリーとして活用し、1階文化交流スペースの利用者や石巻市内で文化事業を営む主体と連携し、魅力的な催事や季節に合わせた展示が街の景観に表出するように注力した。

「4月」

○サロン・ド・ねこ

「5月」

○バラとオイルのパステル展

「6月」

○みちくさてん&S家の恐るべき子どもたち展

「7月」

○石巻怪談ライブ 逢う魔が時（2.0自主事業）

「8月」

○mt archive Vol.2

「9月」

○石巻一箱古本市

「10月」

○石巻ハッカソン2025

○あっぷる作品展2025

「11月」

○公認 木村編物学院 懐古展

○手のぬくもり4人展 ふゆびより

「12月」

○クリスマス装飾

○冬のオイルパステル展

「1月」

○MORI to UMI-若手作家・デザイナーたちによる「森と海の美術展」

○企画展 情景-scene- (2.0自主事業)

「2月」

○企画展 情景-scene- (2.0自主事業)

「3月」

○星真子個展「PAESAGGIO di CUORE」

- ・館内入場者に積極的に声をかけ、館内の説明をおこない、館内パンフレットや文化交流スペースで開催予定のイベントのお知らせを配布している。
- ・施設アンケートを高い割合で回収し、利用者の声を施設運営に反映した。

「自主事業として」

- ・灯油ストーブや、プロジェクターやスクリーンの貸出サービスを行うことで、幅広い利用用途に対して貸出を行うことができた。
- ・ミュージアムショップ機能として、「まちあるきマップ」の販売や「トートバッグ」や「ポストカード」等の商品を開発・販売。より多くの市民に旧観慶丸商店に愛着を持っていただくための取り組みも行なっている。

3 利用者等の要望の把握及び実現策

- ・入館者にはアンケート調査をおこない、利用者の要望を把握した。
- ・利用者の要望として多かったのは展示物の充実や実物の展示。また旧観慶丸商店に関する展示の充実であった。
- ・3階や和室部分など通常時非公開部分を観覧したいという要望も多く、特別公開日の開催をご案内することや、建物のみどころパネルを随所に設置し、非公開部分の写真を掲載することで非公開部分の様子を伺えるように配慮している。
- ・1階文化交流スペースの利用状況を把握しやすいように月別カレンダーの設置をおこない、インターネット上でも積極的に発信している。
- ・公式HP上から、1階文化交流スペースの予約申請をオンライン申請が可能としたことにより、市外からの予約もスムーズに行うことができ、利用の促進につながった。
- ・1階文化交流スペース利用者が催事を準備する際の搬入経路がないことが課題となっている。周辺のコインパーキングをマップ化し案内として利用者に配布している。
- ・催事に参加する一般利用者の駐車場がないことが、近隣駐車場の無断駐車につながっている状況がある。催事の広報物には必ず駐車場がない旨を記載いただくよう貸出利用者にはお願いしている。
- ・冬期間においては暖房設備を稼働させても室温が十分に上がらないという問題がある。冬季は室温の計測をおこなうと共に、補助暖房として貸出ししている石油ストーブ

を催事開催の数時間前から稼働するように利用者に案内をし、膝掛け毛布の無料貸出などをおこなっている。
4 経費節減のための方策 ・消耗品購入に当たっては、複数の小売店を比較検討し、合理的な価格で購入することとしている。 ・冷暖房機に関しては中間期の使用は必要最低限に留め、こまめに清掃することで負荷を抑え効率をあげ電気代の節約を試みている。
5 施設の管理業務のうち第三者に行わせた業務 ・消防設備点検 ・小規模修繕工事（まちかどギャラリー部分雨漏り対応、防犯カメラの設置工事） ・夜間や休館日など閉館時間中の警備業務
6 その他（地域との連携、他施設との連携等） ・作品展など、これまで開催してきた文化イベントが継続して定期的に本施設でおこなわれることが、定着してきている。 ・地域のギャラリーなど他施設での催し物を積極的案内し、はじめて石巻市内を訪れる来街者にとって有益な情報を提供できるようにしている。 ・他施設の催し物のチラシや案内などを当館に配布する流れも生まれ、文化活動の中心施設としての役割を果たすことができると考えている。 ・オカリナフェスティバルの方々に毎年使っていただいております、音楽でも活用されている。 ・地域の文化活動を行なっている団体による展示利用も増加しており、昨年度よりも貸出の件数自体は増加傾向にある。 ・2月7日～3月22日の期間では、2階にて展示企画である「Re-Born Art Festivalの軌跡から、石巻の「いま」と「これからを考える」」が開催。これまで、本祭の際には1階から2階まで様々な活用をしていただいた縁もあり実現。たくさんの市民の方々や観光客の方々に、これまでの企画の軌跡を振り返っていただき、その後の地域に対して考えていただく機会となった。 ・石巻博物館の担当スタッフとの情報共有を強化しており、博物館の企画との連動など、連携的な動きが増加している。
【緊急時対策について】
1 防犯、防災の対応 ・各コマ（午前・午後①・午後②・夜間利用の場合は夜間）での館内巡回点検をおこなっている。 ・開館時間外に関しては機械警備システムと連動して、異常があった際には警備会社スタッフが駆けつけ、報告を受けている。
2 その他、緊急時の対応 ・緊急時対応マニュアルを作成し、大規模な災害が発生した際はマニュアルを確認し直ちに必要な措置を講じるとともに、市を含む関係者に対して緊急事態発生を旨を通報する体制を整えた。 ・津波警報および注意報発動時には、館内利用者を津波避難先である羽黒山神社に誘導の上、館内を施錠し管理者職員も津波避難ビルに退避することを防災訓練で確認している。 ・避難誘導訓練において、有事の際に適切な処置がおこなえるよう防災対応を確認している。 ・新内海橋が本施設の前に開通したことで、車両交通量が大幅に増えた。そのため緊急事態でも対応できるようAEDの導入を平成31年度より進め、定期的に人命救助訓練を全スタッフ対象に続け、緊急時の救命措置ができるような体制を作り上げている。

【情報公開を行うための措置について】

- ・ サービス提供の状況及び施設の管理状況等について精緻に記録し、公開等に対して適切に対応する準備をしている。自己が管理を行う公の施設に関しての記録を保有し、破棄せず、これを一般の閲覧に供するものとする。その際に個人に関する情報がみだりに公にされることのないよう最大限の配慮をするものとする。

【個人情報の保護の措置について】

- ・ 石巻市個人情報保護条例等、個人情報に関連する法律等を順守し、運営管理上必要な個人情報については必要最低限の提出に留め、厳格かつ厳重に取り扱っている。
- ・ 利用者情報に関しては、申請書やパソコンは鍵付きの保管庫に保管している。
- ・ 従業員に関しては、個人情報保護・秘密保持に関する誓約書を取り交わしている。

※ その他

旧観慶丸商店 事業実施報告書（令和7年度）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
【文化交流事業】 まちあるきプログラム	文化や歴史を理解し、魅力発見につなげるために施設を起点とした展示を実施する。また地元郷土史家や文化活動の専門家等の協力のもと、石巻まちなかの他の文化施設や文化団体等と連携したまち歩きツアーを開催した。施設の特別公開日に合わせて実施した。	まち歩きツアーを11月3日に開催。教え子であるアサイ美術部と協働で、スケッチ地図を巡るまちあるきをおこなった。 参加者：16名
【文化発信】 コーナーウィンドウ活用事業	街なかの様々なクリエイターや文化施設等と連携し、まちかどギャラリーとして活用することで、地域に文化的な彩りを添えた。	街角に面した窓部分をギャラリーとして活用し、1階文化交流スペースの利用者や石巻市内で文化事業を営む主体と連携し、魅力的な催事や季節に合わせた展示を通年実施した。
【文化連携企画】 地域のアーティスト 応援プログラム	石巻市のアーティストの作品発表の場として1階文化交流スペースで企画展を行い、多様な層への施設活用を促した。	旧観慶丸商店自主事業として心の復興事業を活用し、「アーティスト企画展「情景-scene-」」を開催。石巻在住の若手アーティストを応援する本プログラムでは、版画や立体、音楽作品を中心として個展で、市内外問わずたくさんの方々が来場した。個展来場者：377名。ライブパフォーマンスイベント来場者：24名。
【運営事業】 利用者満足度向上事業	施設利用者に対して利便性を高められるよう、施設の案内や施設の魅力を伝える広報物の制作をおこなった。また文化交流スペースの利用率を高めるために、イベントの広報をサイネージやWEB、SNSなどの発信を通じて積極的におこなった。	施設のみどころを説明する建物案内看板を刷新し、継続的にSNSやWEBサイトを更新した。また文化交流スペースの利用率や集客率をあげるために、イベント主催者と連携し、積極的な発信をおこなった。
【研修事業】 マナー研修・業務研修	入社時1ヶ月はマナー研修を中心に基礎的な接客能力を養った。同時に業務研修として開館作業や施設の保守管理業務を中心に施設内でおこ	入社時期にあわせて、新スタッフには接客能力の指導および施設保守管理業務の指導をおこなった。

	なった。	
【研修事業】 まちガイド研修	地元郷土史家などと連動し、来街者への接遇をあげるため実施した。	11月のまちあるきツアーを企画にあたり、東京科学大学の真野教授に指導を受け、街並みの歴史や変遷について学んだ。
【研修事業】 文化財施設の活用	文化財活用に関しての知見を高めるために他地域の文化財の活用事例に関しても積極的に学び、類似施設の管理者とも活発な意見交換などを行う機会を設けた。広報発信や施設管理などの技術の向上を目指した研修もおこなった。	街づくりまんぼうが運営する石ノ森萬画館にて、7月22日に研修をおこなった。 スタッフ7名と運営スタッフの方とで意見交換をおこなった。
【防災事業】 防災防犯研修	火災や地震・津波を想定した防災訓練を実施した。AEDを使った救命訓練も実施した。消防署と連携も考慮した。	2025年6月、2025年7月にスタッフを対象に実施。火災発生時および災害時を想定し、避難訓練と通報訓練、AED訓練を実施した。